

ウトロ海域における保全と利用の取り組みの進捗状況について ～2022 年（令和 4 年）度知床ウトロ海域環境保全協議会活動報告～

2022 年度は 4 月の知床遊覧船の事故を受け、観光船を利用した活動（大型観光船おーら号での海鳥トーク・小型観光船による海鳥サンセットクルーズ・各ホテルでの海鳥トーク）を自粛したが、代わりにインスタライブやイベントブース出展による活動 PR を強化した。なお、海鳥 WEEK 特別展や海鳥調査については例年通り実施した。

詳細を以下に紹介する。

海鳥 WEEK 企画

海鳥 WEEK は、ケイマフリをはじめとした海鳥を通して、知床の海や観光に関わる関係者が、知床の海の環境保全と適正利用について改めて考えていく期間として設定しているもので、期間中のイベントの際には、特注のハッピを着て周知を行っている。

期間中は、主に以下 2 つの企画を実施した。

①海鳥トーク

- 7 月 22 日にウトロ漁港において、ウミウの営巣状況や漁港から観察できるケイマフリについてインスタライブを通して紹介するイベントを行った。ウトロ海域協議会、知床自然センター、観光船オーロラ 3 つのアカウントのトリプルコラボで実施し、観察の際のポイントや注意点などをインタビュー形式で解説した。



②知床世界遺産センターでの知床海の特別展

- 知床世界遺産センター・レクチャー室において 7 月 16 日～8 月 5 日まで、ケイマフリや知床の海鳥に関する写真、知床半島のジオラマなどの展示を行った。



イベント出展企画

2022 年 3 月時点で、以下 3 つのイベントに出展した。また、今後 1 月末にある根室バードランドフェスティバスにも出展予定。

①葛西臨海水族園「つどえオロロ〜ン」での講演

- 葛西臨海水族園と羽幌の海鳥センターが協働で行う海鳥イベントで、海鳥センターの職員から推薦を受け、8 月 21 日（日）に協議会の活動について講演を行った。（タイトル『知床ウトロ海域でのケイマフリの保護と普及活動』。）対面とオンラインでの講演であったが、会場は定員 41 名の満席、オンラインでは 62 名の方が視聴していた。



※ 葛西臨海水族園では、各種ペンギン類、ウミガラス、エトピリカの飼育展示を通じてその魅力を伝えるとともに、生息域外保全の場としての役割も担っている。また、飼育下という特性を活かした研究者との共同研究に力を入れている。パートナーシップ協定を結ぶ北海道海鳥センターと共催で実施する本イベントを通し、海鳥の保全活動に関するいくつかの最新の研究成果等を参加者に紹介することで、興味・関心を促進させ、理解を深めることを目的としている。

※ その他、関連講演内容

- 『ケイマフリの基礎的な繁殖生態調査』 葛西臨海水族園飼育展示課飼育展示係 野島大貴
- 『地域で守る、海鳥を育む「いきもののにぎわい」』 北海道海鳥センター 石郷岡卓哉氏
- 『羽幌シーバードフレンドリープロジェクト〜マイクロプラスチックの検証〜』
北海道羽幌高等学校 2 年生のみなさま

②知床サステイナブルウィーク

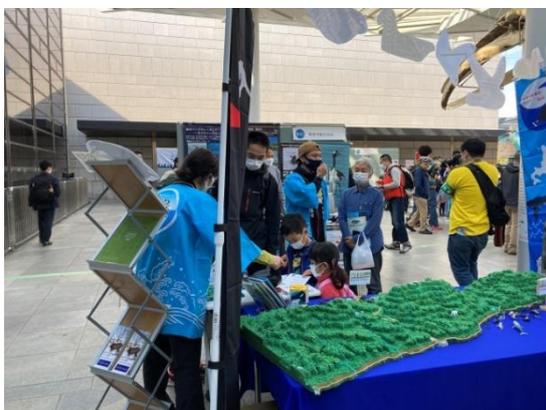
- 9月30日～10月10日に知床財団主催で行われたイベントに、当協議会は10月8日～10月10日の3日間出展した。ケイマフリの映像上映や巣の模型などの展示・物販以外にも、今回は初めての試みとして、オリジナルタンブラー作り体験を行った。参加者は親子連れを中心にシールや消しゴムハンコで自分好みのタンブラーを作っていた。「楽しかった」「作っているうちに愛着が沸いた」など参加者からは大変好評であった。
- 販売実績：タンブラー41個、ケイマフリ手ぬぐい20枚、トートバック（新作グッズ）4つ、ハンドブック3冊



(新作トートバック)

③大阪自然史フェスティバル

- 大阪市自然史博物館で開催される西日本最大の自然系のイベントで、3年ぶりに開催され 11 月 19 日～11 月 20 日の 2 日間で 90 団体が出展、17,000 人が来場した。当協議会は知床半島の手作りジオラマを中心に、物販と知床の海鳥に関するクイズラリーを行った。クイズラリーを通して、ケイマフリや当協議会について知っていただく良い機会となった。参加者からは「ケイマフリについて知ることができて良かった」「観光船事故で大変かと思いますが頑張ってください」など嬉しい言葉を多く頂いた。(クイズラリー参加者：135 名、クリアファイル配布数：約 200 枚)
- 販売実績：ケイマフリ手ぬぐい 40 枚 (完売)、トートバック 4 つ、ハンドブック 4 冊)



④根室バードランドフェスティバル

- 1 月 28 日～1 月 29 日に根室で 3 年ぶりに開催される、バードウォッチング主体のイベント。出展内容として展示以外に、サステイナブルウィークで好評であったオリジナルタンブラー作り体験を実施予定。

ケイマフリの調査活動

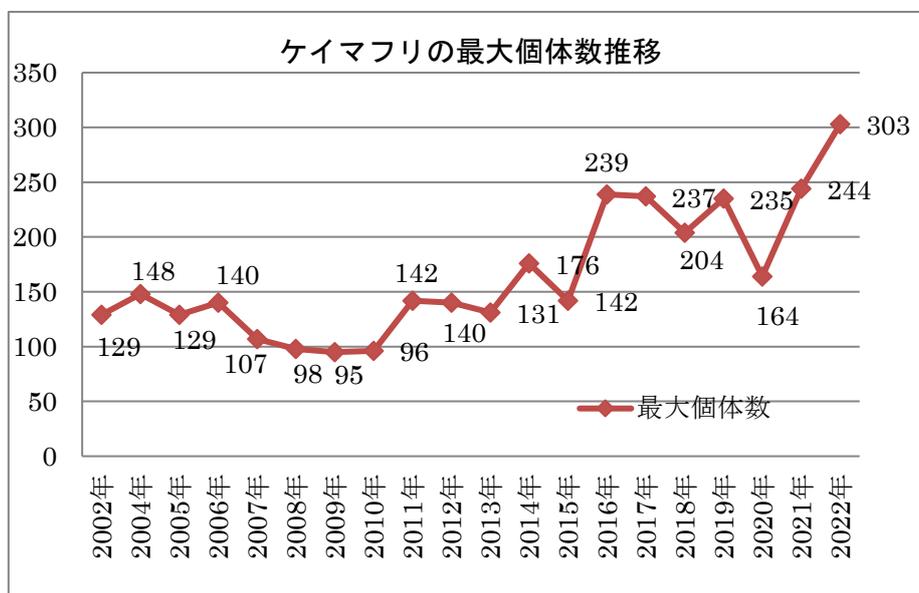
プユニ岬からエエイシレド岬までの区間において、6～7月の期間に、ケイマフリの生息状況及び繁殖状況の調査を実施した。また、ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメについて、知床半島全体における繁殖状況の調査を実施した。概要は以下。

(1) ケイマフリの生息状況について

2022 年は、6 月 26 日に過去最大の 303 羽を記録した。

7 月 14 日に巣立ちヒナを確認した。例年であれば 8 月上旬以降に巣立ちを確認することが多く半月も早い巣立ちであった。この個体はかなり小さく飛行することも出来なく波に揉まれていた。親鳥からの給餌量が少なく空腹のあまり巣を飛び出した可能性もある。

また、8 月中旬には観察されたなかったことから飛去するのも早かったと思われる。



(2) 他の海鳥類の生息状況について

今年も観光客がオロンコ岩の駐車場を利用するおーろら号の出港が5月20日まで欠航したため駐車場の利用は少なかった。そのため警戒心の強いオジロワシがオロンコ岩周辺に頻繁に出現し、ここで繁殖するウミウやオオセグロカモメに影響を与え、これらの鳥たちの営巣数が減少した。